

妃名於萬代

〔日本書紀三十持統〕高天原廣野姬天皇統持少名鷗野讚良皇女、天命開別天皇智○天第二女也、母日遠智

娘更名美濃也、天皇深沈有大度、天豐財重日足姬天皇明○齊三年、適天淳中原瀛真人天皇武○天爲妃、

〔續日本紀四十武〕延曆九年閏三月丙子、是日皇后崩、甲午、參議左大辨正四位上紀朝臣古佐美率誅

人奉誅、諡曰天高藤廣宗照姬尊略○中皇后姓藤原氏、諱乙牟漏、贈內大臣贈從一位良繼之女也、母尚

侍贈從一位阿倍朝臣古美奈、后性柔婉美姿、儀閑於女則、有母儀之德焉、今上之在儲宮也、納以爲妃、

生皇太子賀美能親王、高志內親王、

〔日本紀略一醍醐〕延喜十九年十月十一日乙巳、女御藤原氏皇太子保於東宮賀右大臣忠平藤原四十

算

〔日本紀略十一條〕長德元年四月六日壬午、關白正二位藤原朝臣道隆依病入道十三年中宮子定并東宮

女御三條隆女御行啓彼里第、

〔天鏡七太政大臣道長〕つぎの女君子嬉はそれも内侍のかみ、十五におはしますに、いまの東宮朱雀○後

十三にならせ給ふとし、治安元年二月一日まゐらせ給ひて、春宮女御にてさふらはせ給ふ、どう

くはでんにぞおはしまし、どの長道入道せまめ給ひて後の事なれば、いまの關白殿通頼の御

女となづけたてまつりてこそはまゐらせ給ひしか、

〔續世繼三大内渡〕としもかはりぬれば、院鳥の姫宮子東宮二の女御にまゐり給、高松の院と

申御事なり、

〔百練抄四一條〕正曆四年閏十月廿日、小右記云、中十四日正曆五年觀修僧都來云、近會東宮更衣大

將時濟修法、猛靈忽出來略○下

〔河海抄二〕六條御息所秋好中宮母儀前坊御息所

中將御息所貞信公女前坊御息所